


令和5年度 学校報告会

川崎市立南野川小学校

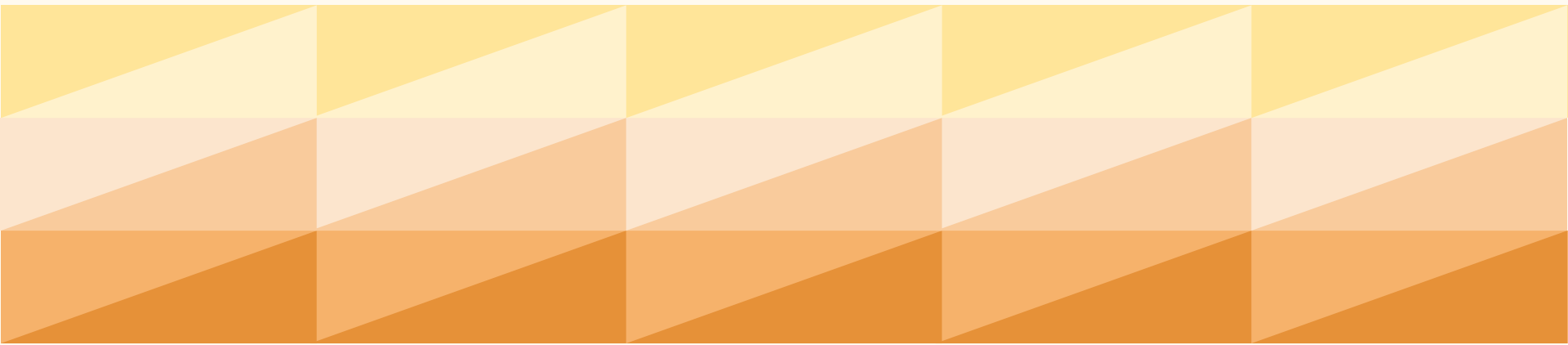
校長 西村 勇一郎

An illustration of a school building with a clock tower, a fence, and a field. The building is light blue with a central clock tower. To the left is a green fence. In the foreground is a brown field. The sky is light blue with white clouds.

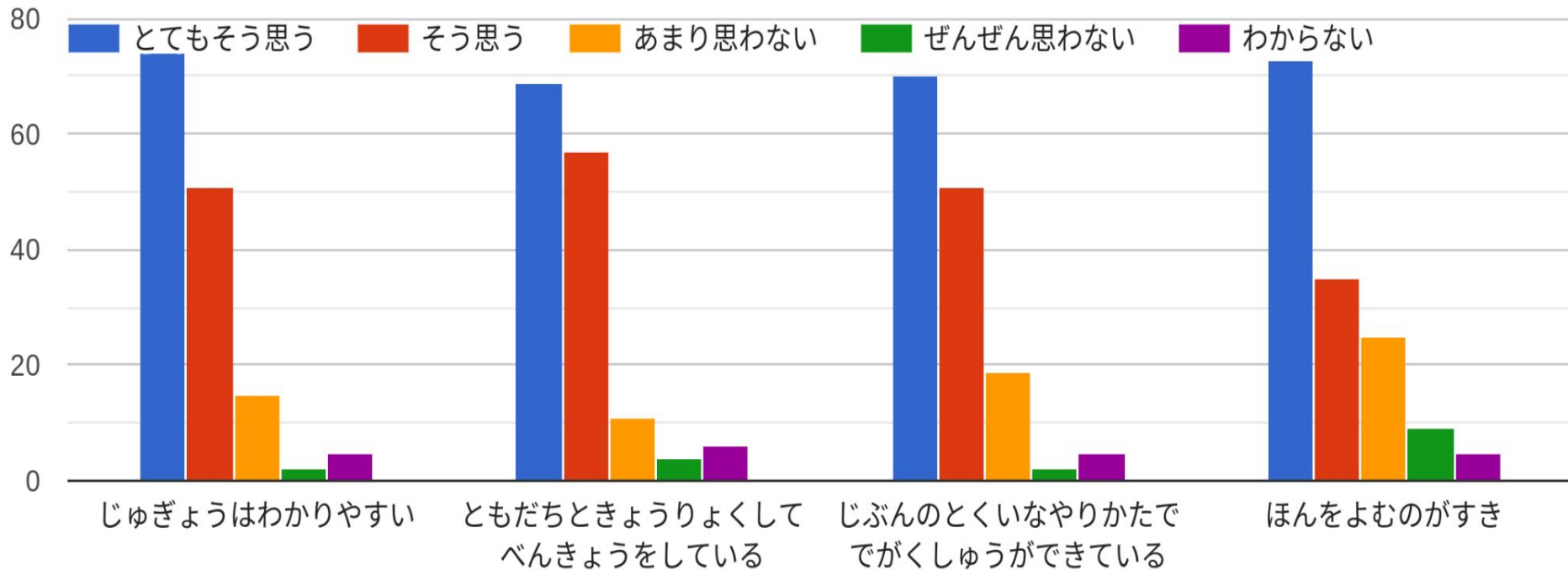
令和5年度 川崎市立南野川小学校 学校評価アンケート結果

—集計グラフおよび考察—

1. 確かな学力の育成

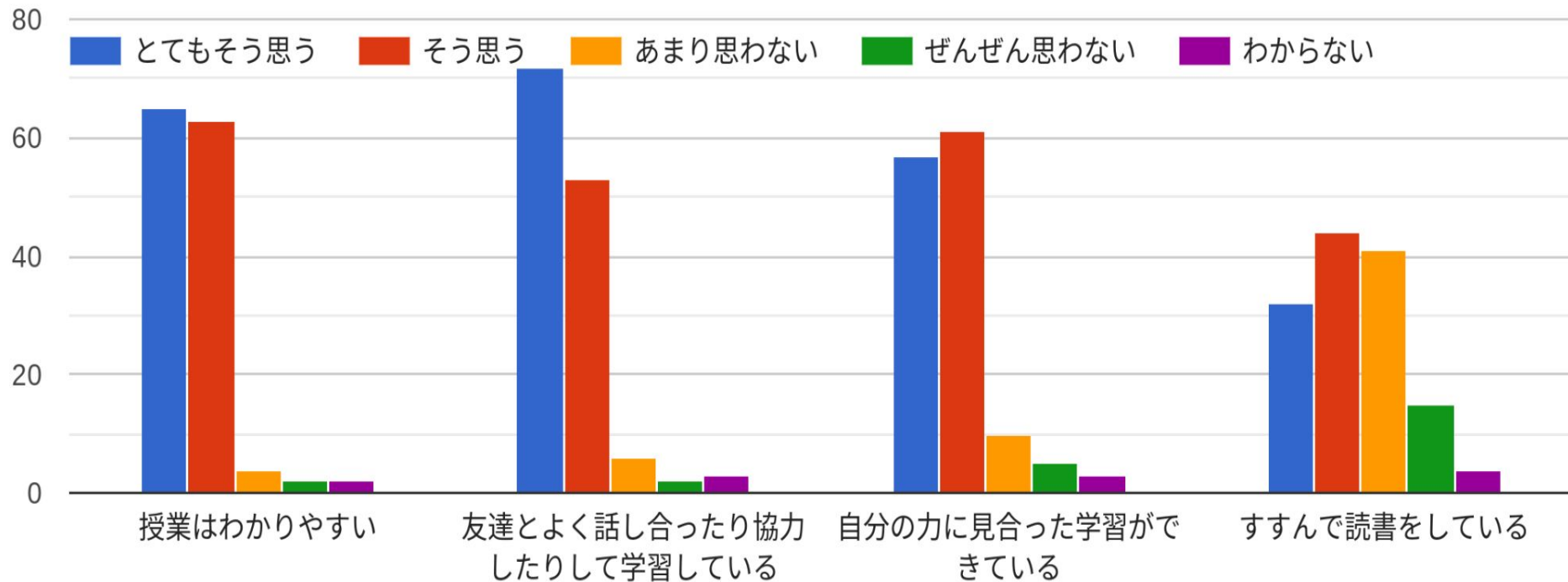


1 べんきょうについて



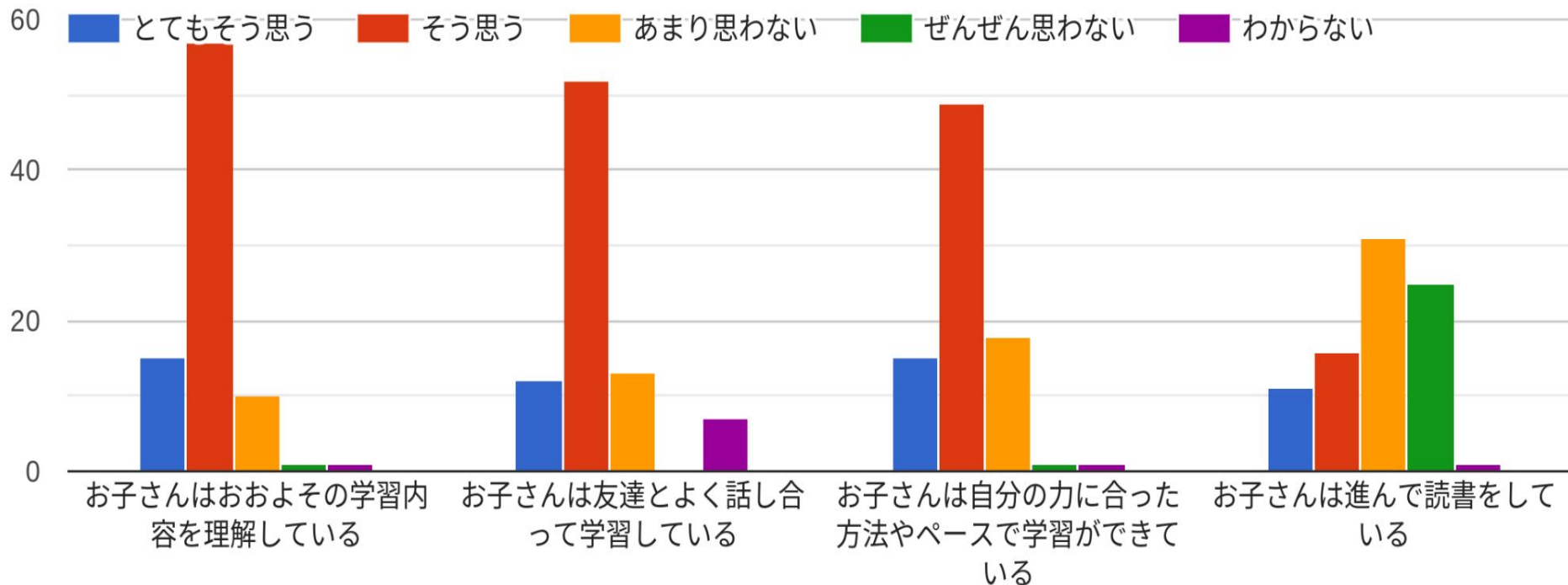
1 勉強について

高学年



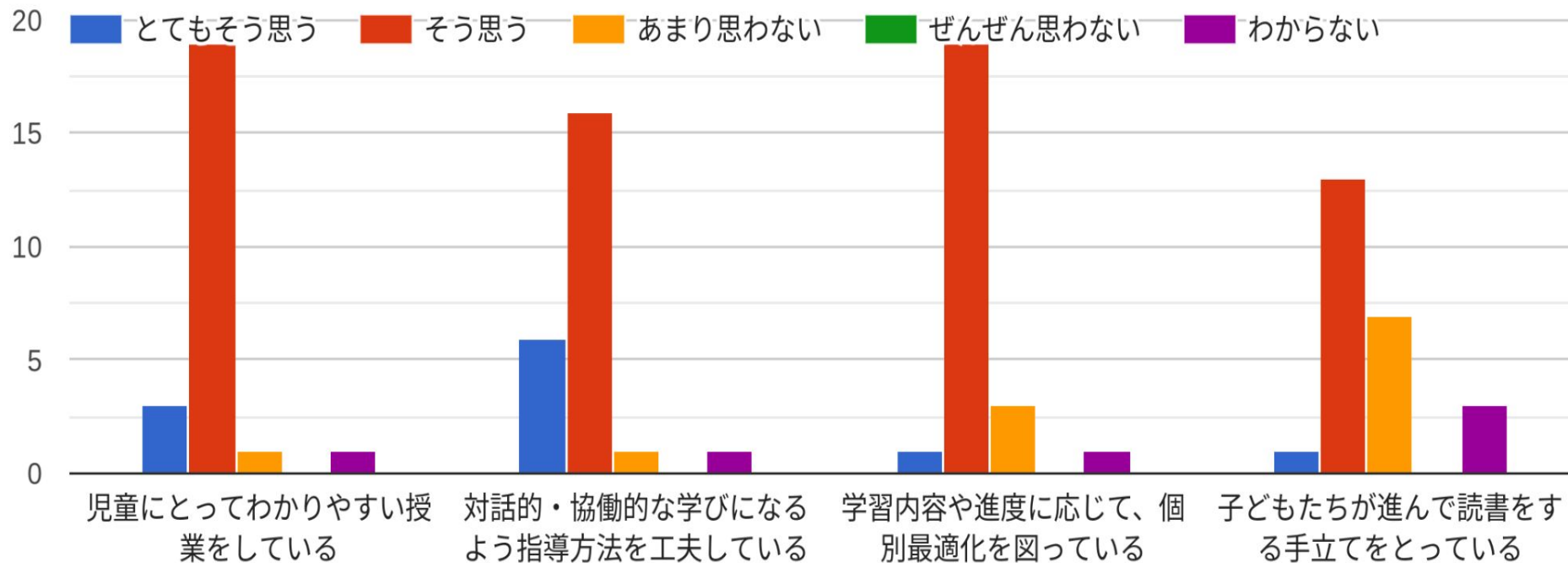
1 確かな学力の育成

保護者



1. 確かな学力の育成

教職員



1. 確かな学力の育成についての考察

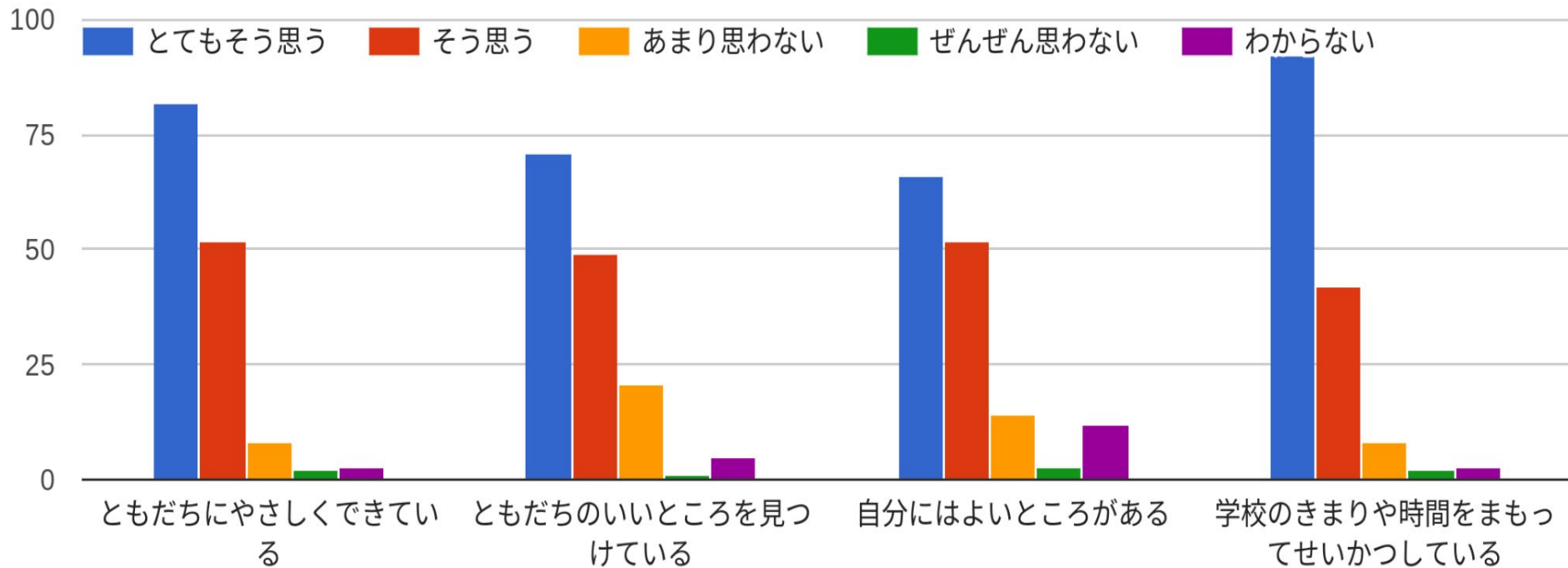
・「進んで読書している」の評価が低かった。木曜日朝の全校読書活動（自由読書や、図書ボランティアの方による読み聞かせ）、長期休みの本の貸し出し、定期的に学校図書館の利用など本に親しめる取り組みをしてきたが、まだまだ子どもたちに読書の良さを伝えきれてない面もあると考える。そこで、子どもに本の紹介をするなど教師個々で行っている活動を出し合い、いろいろなアプローチを試みていく必要がある。保護者の皆様にも、子どもに読書を勧めていただきたい。

・「学習内容を理解している」「友達とよく話し合って学習している」「自分の力にあった方法やペースでの学習している」については評価が高く、これからも取り組みを続けていきたい。

2. 児童理解・児童指導の充実

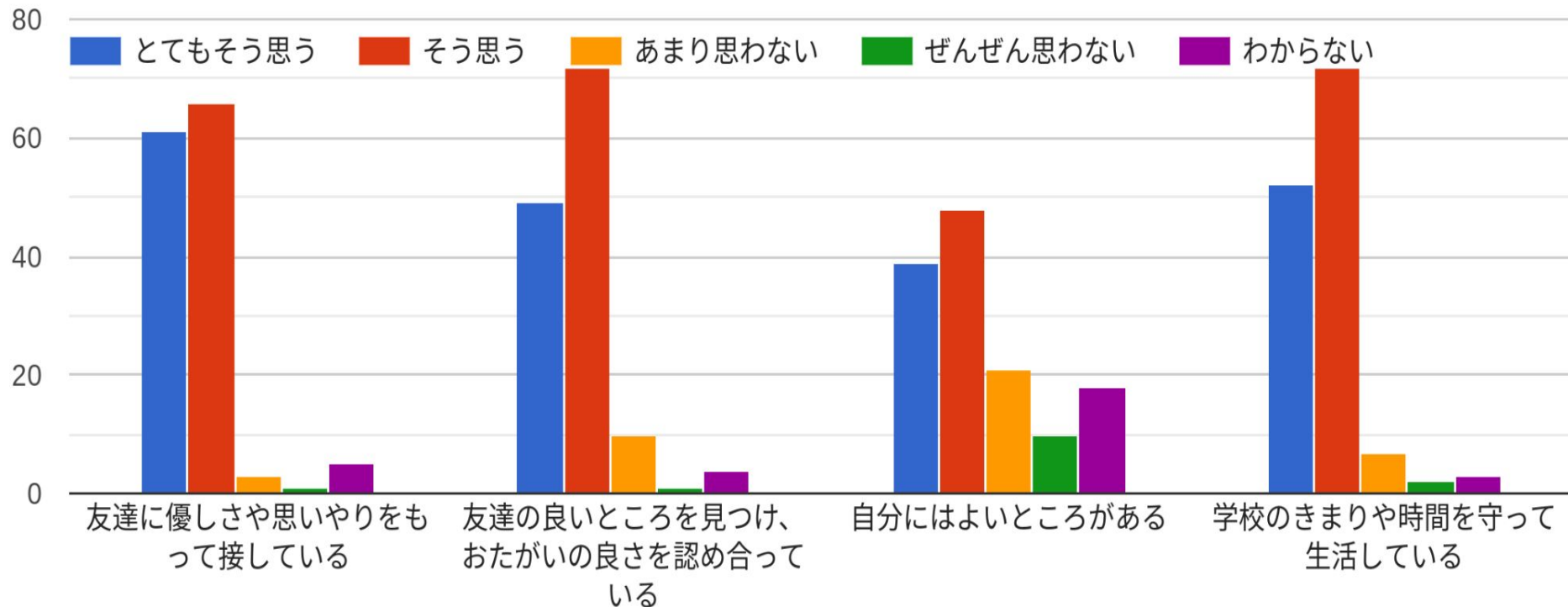
2 せいかつについて

低学年



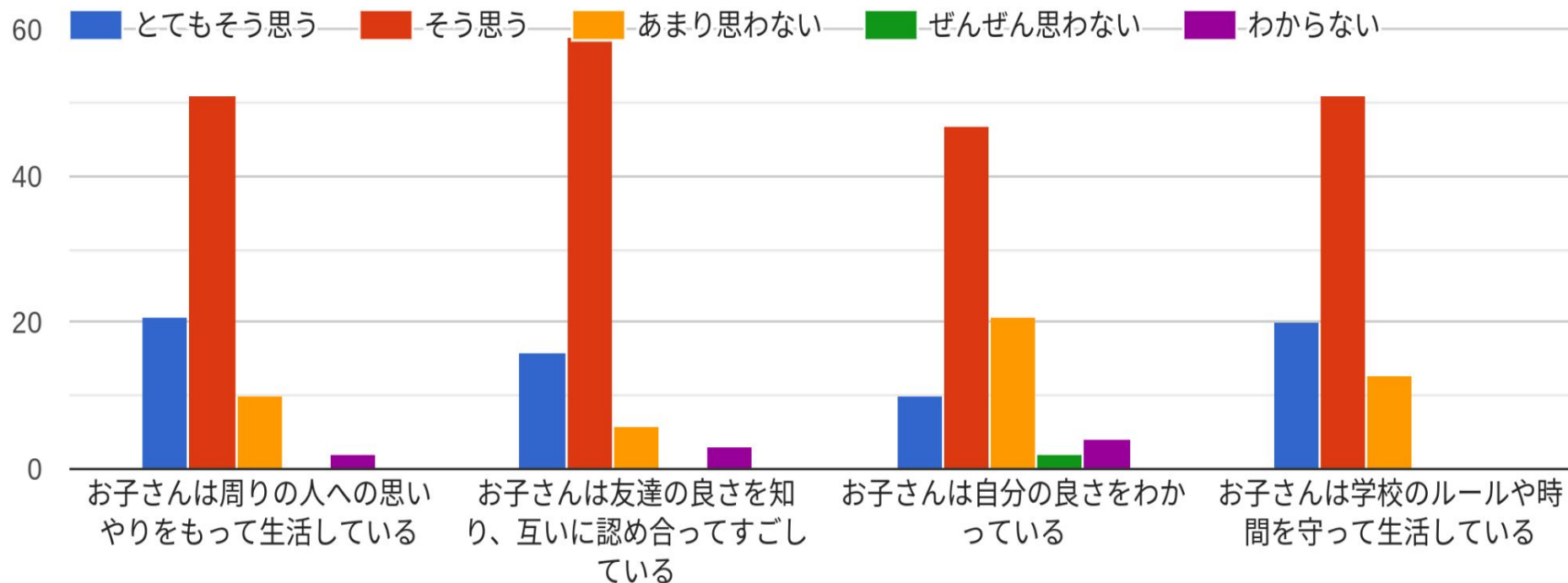
2 生活について

高学年



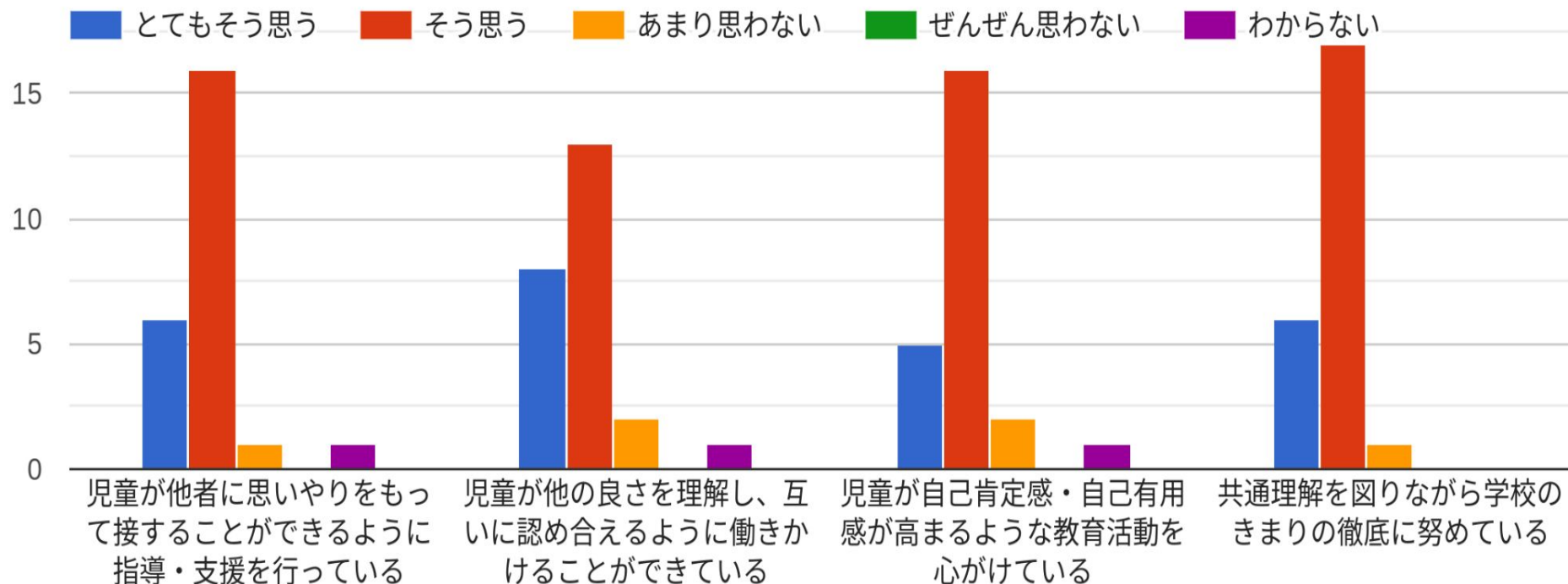
2 児童指導の充実

保護者



2. 児童理解・児童指導の充実

教職員



2. 児童指導の充実についての考察

・「友達に優しく接している」項目については全体的に肯定的回答が多い。子どもたちは友達に対し思いやりをもつことを心がけ、実践しようとしていることがうかがえる。一方、友達の良いところを見つけている項目ではできていないと感じている子が特に低学年では少し増えている。自分のことで精一杯で、他に目が向かないのかもしれないので、学校生活の中で互いの良さを見つけ認め合えるような活動を意識して行っていきたい。

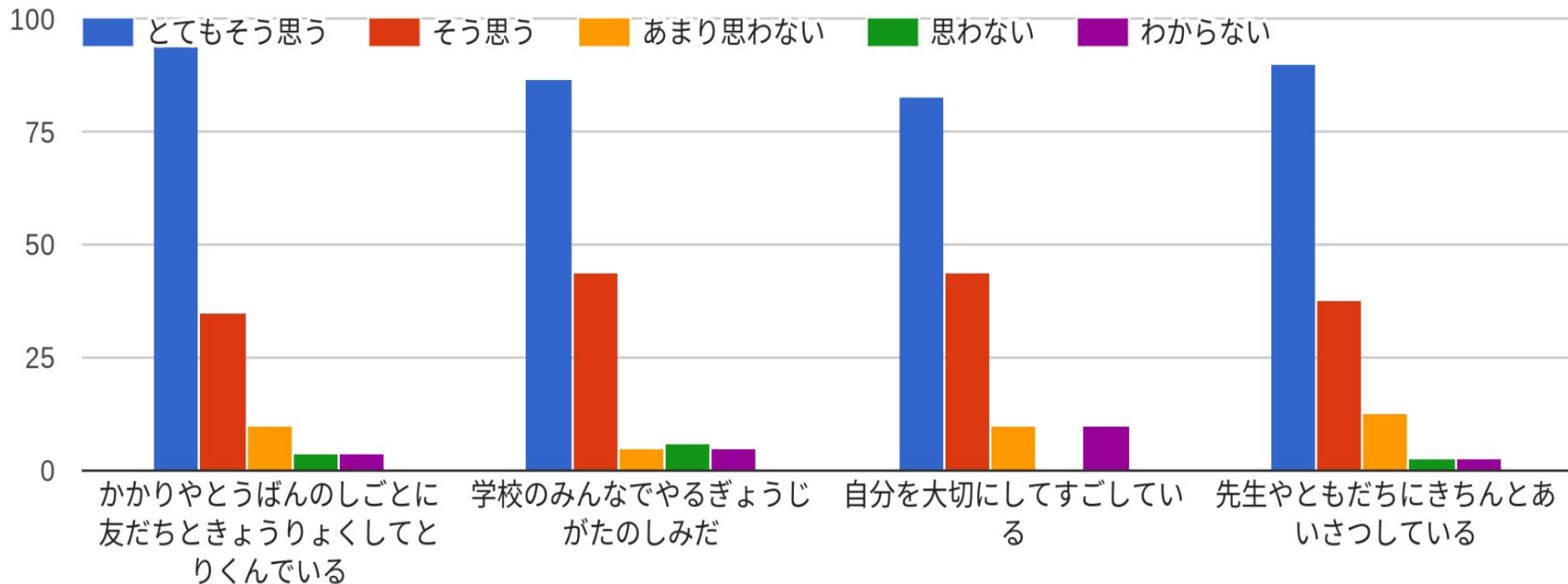
・昨年に引き続き「自分に良いところがある」項目は肯定的回答が少なくなっている。特に高学年では謙遜や自分に厳しいという側面があるかもしれないが、自己肯定感の低さは課題である。保護者は、子どもたちが自分の良さをわかっていないと感じているようだ。大人が知っている子どもたちの良さを子ども達自身に積極的に伝えていく必要がある。



3. 豊かな心・健やかな体の育成

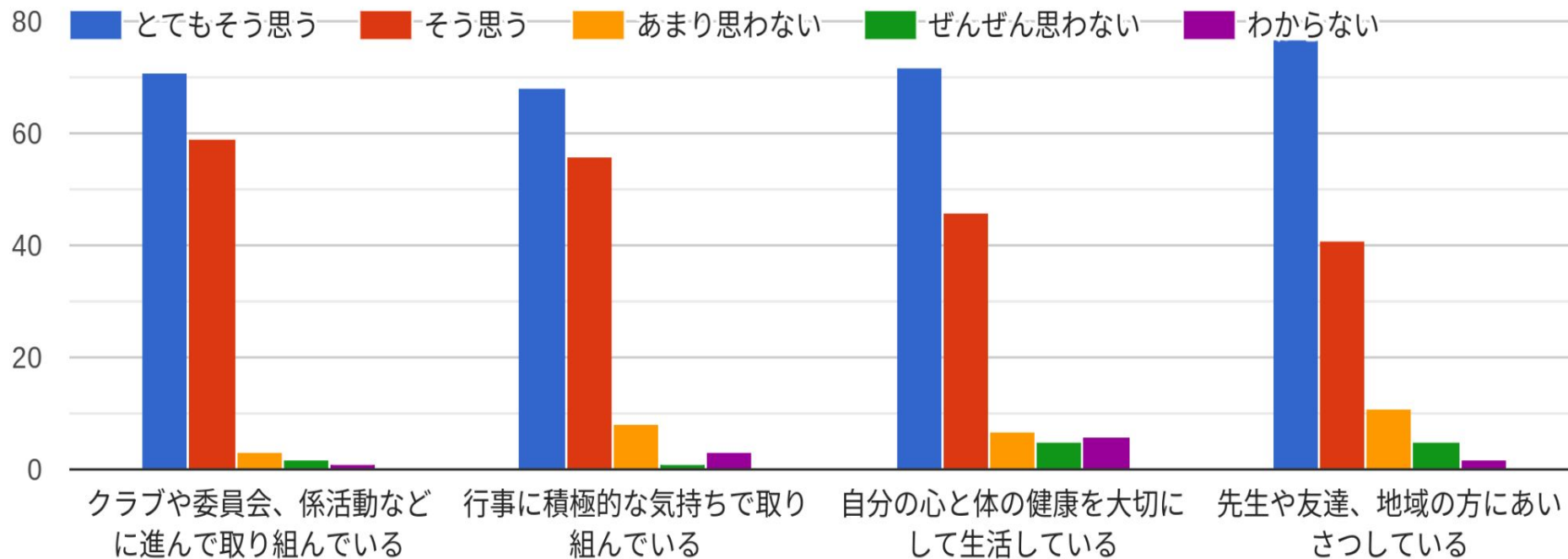
3 いろいろなかつどうについて

低学年



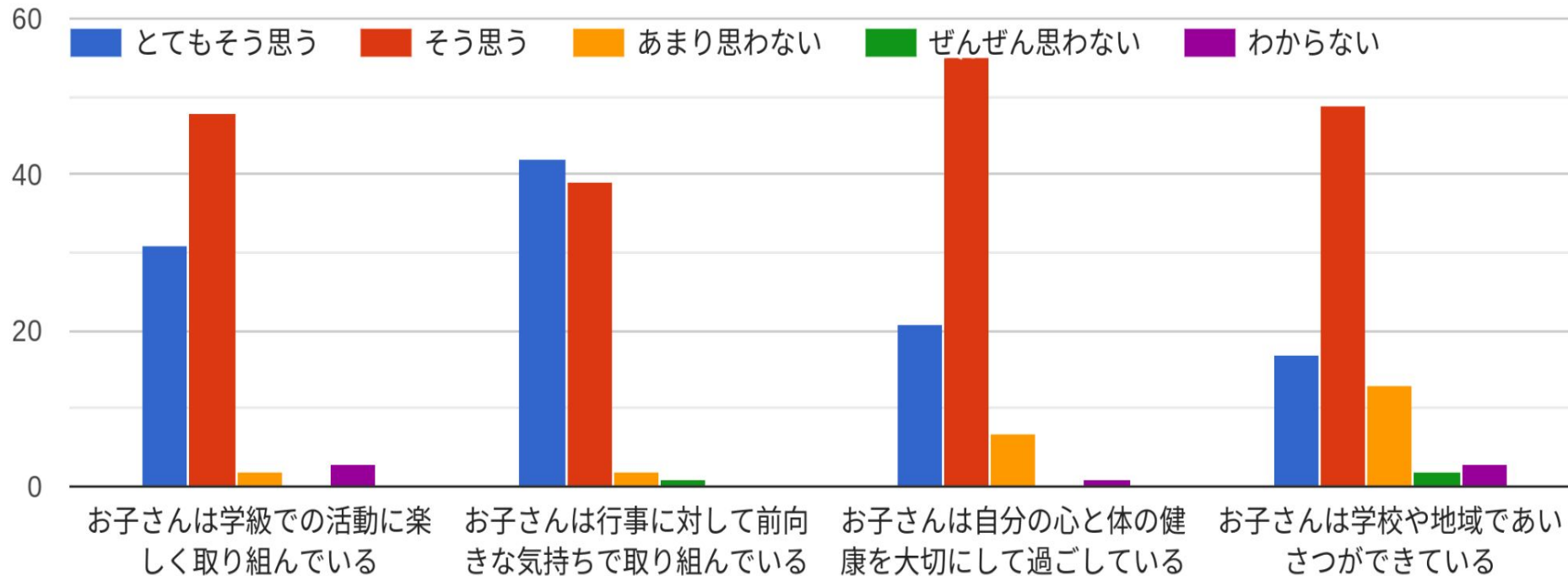
3 様々な活動について

高学年



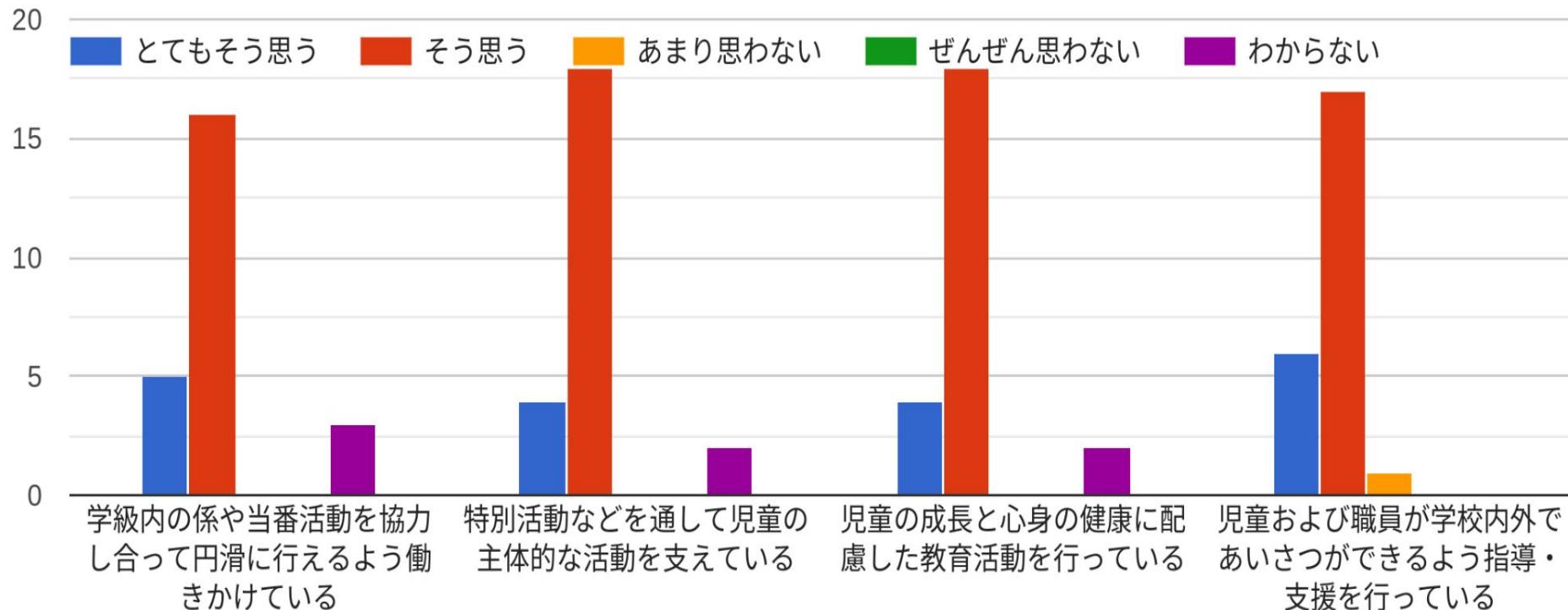
3 豊かな心・健やかな体の育成

保護者



3. 豊かな心・健やかな体の育成

教職員



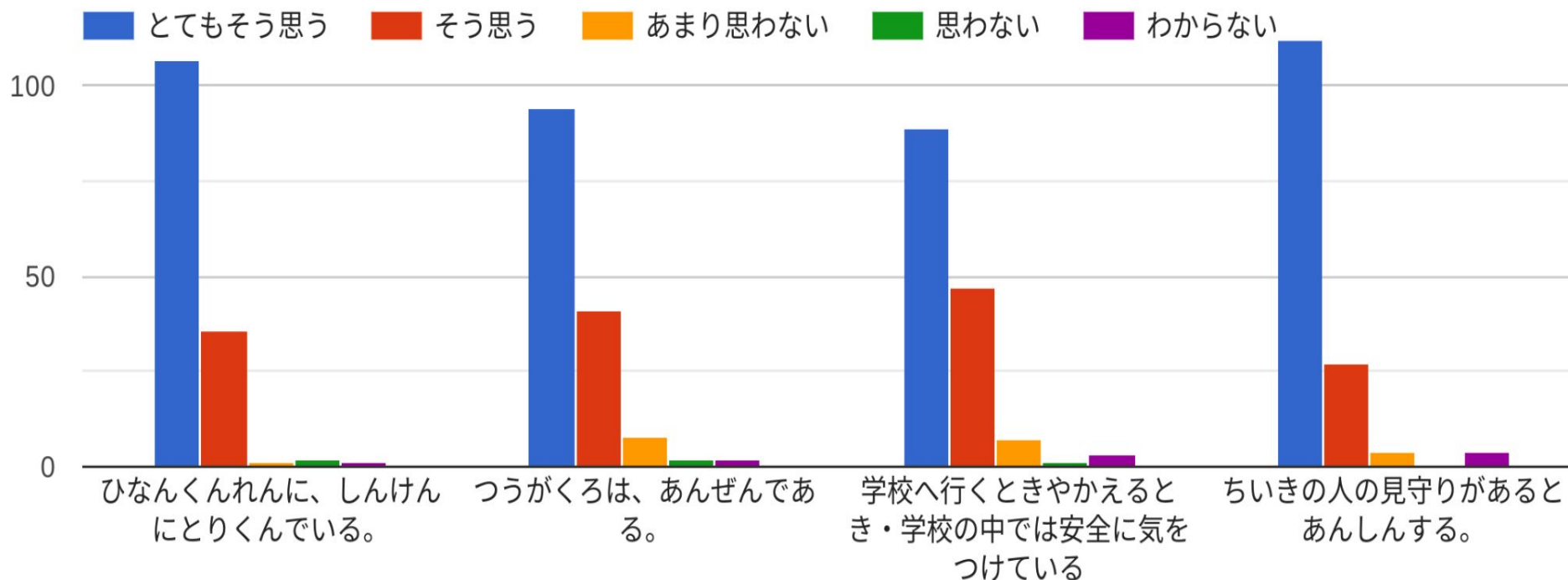
3. 豊かな心・健やかな体の育成についての考察

- ・学級内の係やクラブ、委員会活動については、全体的に高い評価である。児童主体的な活動を活性化させながら、さらに学級や委員会活動を行っていきたい。
- ・学校行事については、ほとんどの児童が楽しく、協力しながら積極的に取り組んでいる。引き続き主体的な活動が行われるよう支援、工夫をし活動できるようにしていきたい。
- ・心や体、健康についてはおおむね肯定的な回答であった。家庭と協力しながら自分の健康を意識し、健康で安全な学校生活を送られるよう根気よく取り組んでいきたい。
- ・教職員や友だち、地域の方への挨拶は身についてきている。特に高学年の挨拶への意識が高い。若干保護者との意識の差がみられるので、学校行事などで校舎内で会う保護者の方にも進んであいさつできるように働きかけていきたい。

4. 開かれた学校・安全安心な学校

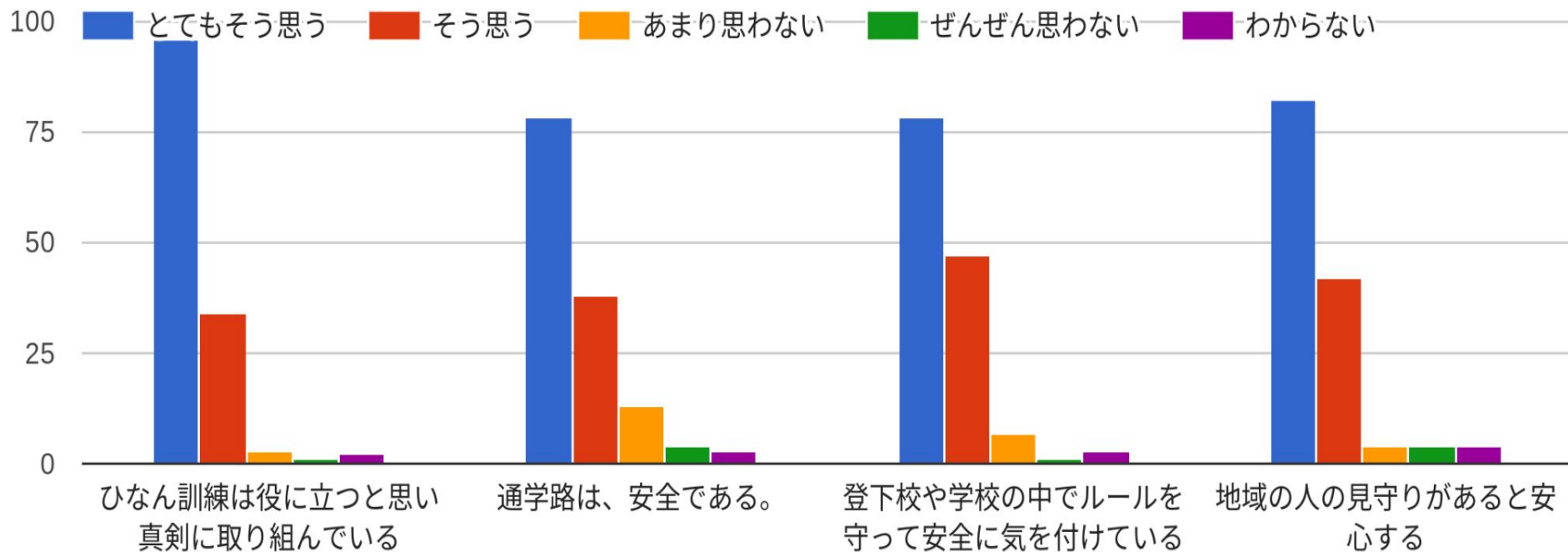
4 ちいき・あんぜん・あんしんについて

低学年



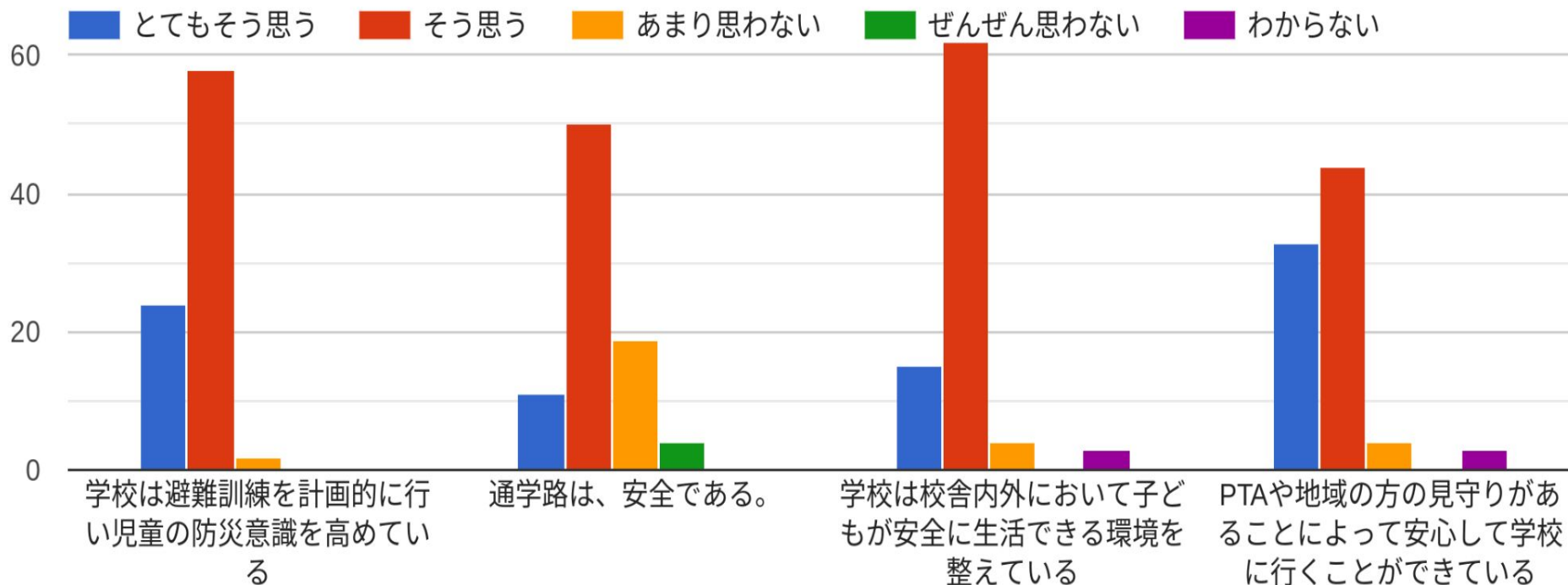
4 地域・安全・安心について

高学年



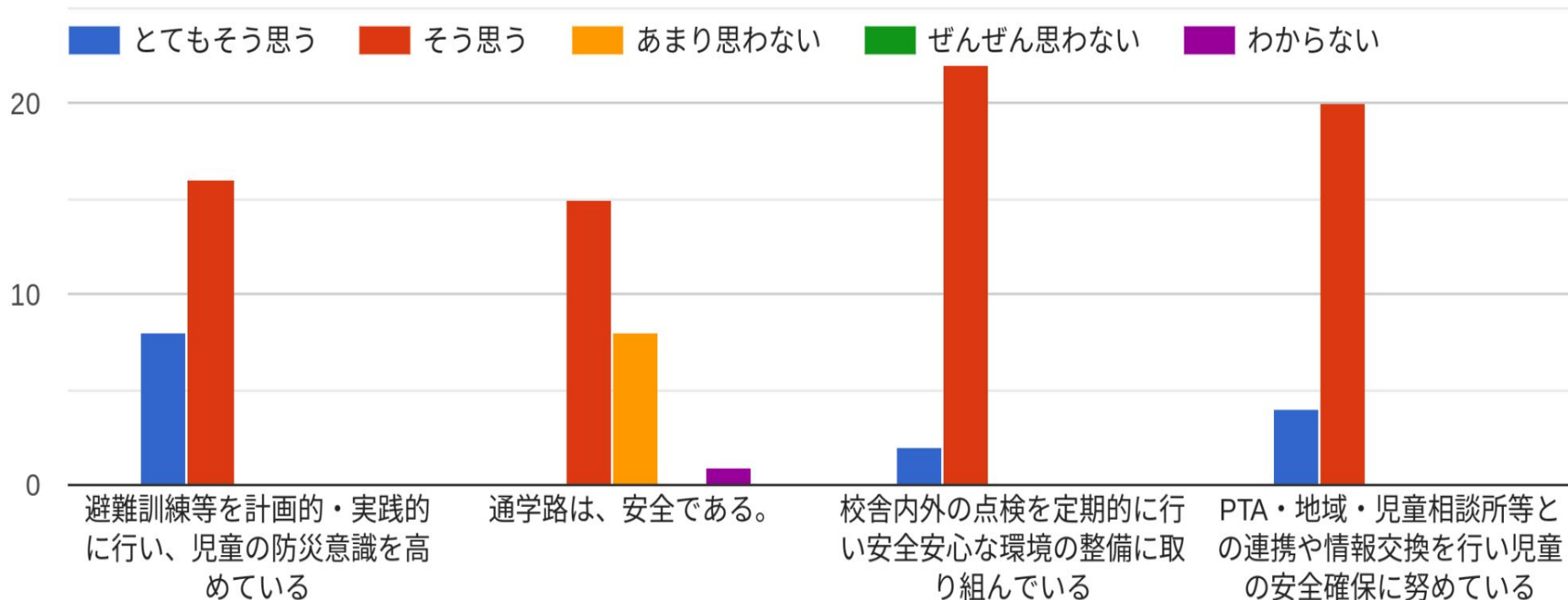
4 開かれた学校・安全安心な学校

保護者



4. 開かれた学校・安全安心な学校

教職員



4. 開かれた学校・安全安心な学校についての考察

・避難訓練の実施について、児童・保護者・職員ともに肯定的な意見が多かった。特に児童は、「真剣に取り組んでいる」回答が最も多かった。本校では、毎月避難訓練を実施しており、この継続的な取り組みによって、防災意識が高まっていると思われる。

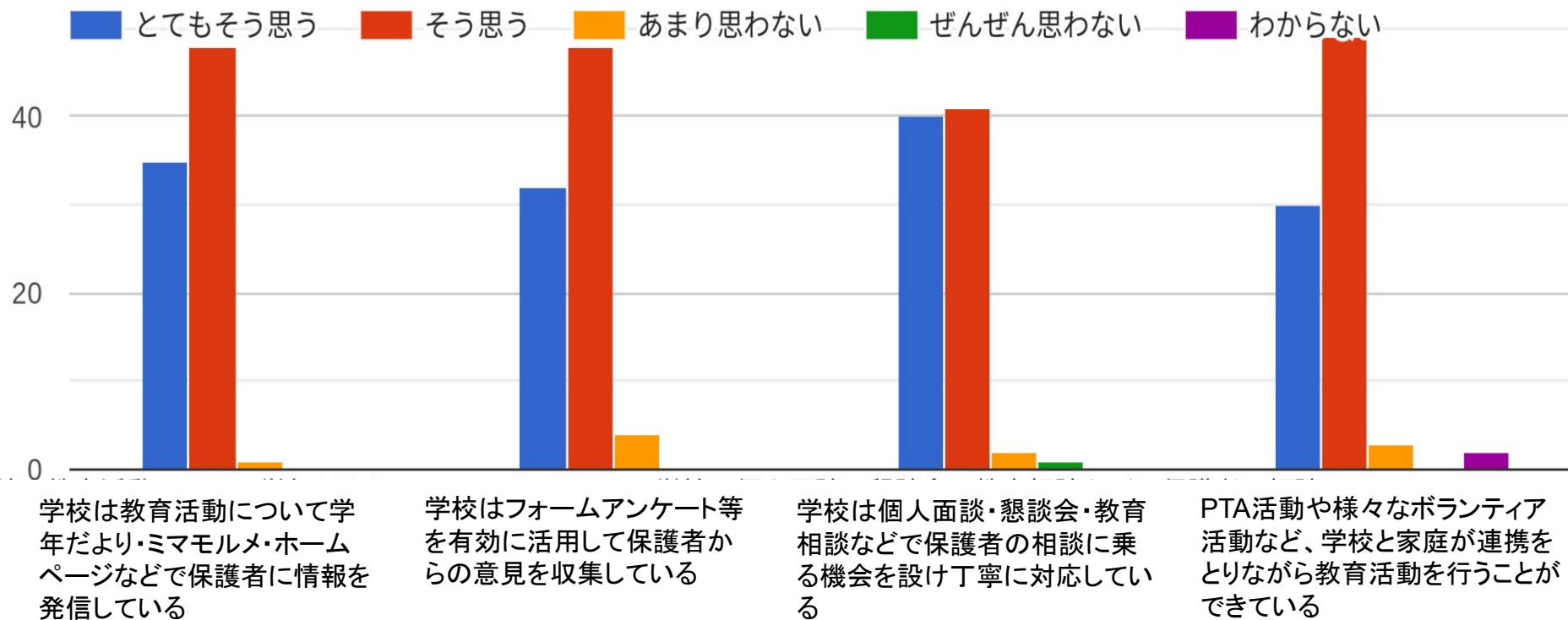
・通学路の安全について、低学年に比べ高学年は「あまり安全とは思わない」回答が多かった。高学年は、「道が狭い、車の通行が多い、歩道が無い」等を理解して登下校していると考えられる。保護者・職員からも安全に対して否定的な回答が多く、ガードレールの設置等、通学路改善の要望が出ている。今後も地域と連携して児童を見守る活動を継続していくとともに、保護者の皆様から具体的に危険なエリアを教えていただき、行政へ要望を出す取り組みが必要である。

5. 情報発信・学校と 家庭の連携



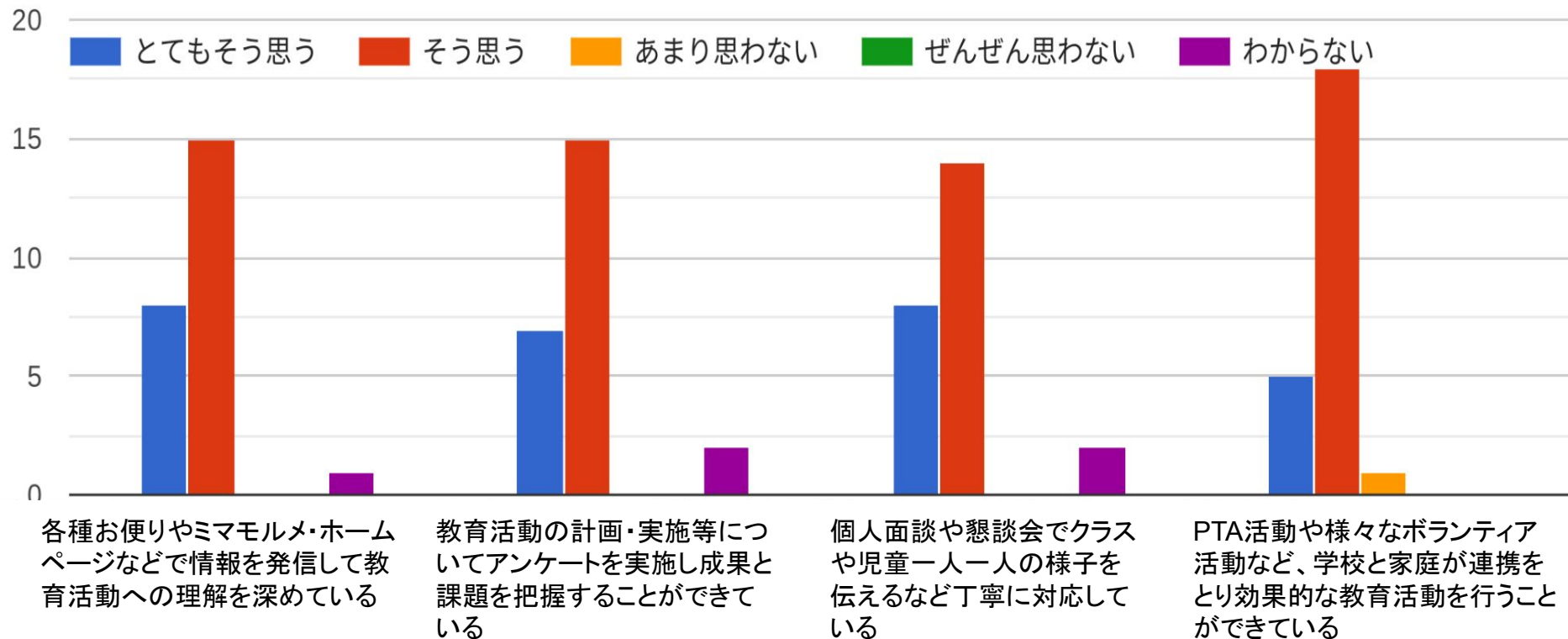
5. 情報発信・学校と家庭の連携

保護者



5. 積極的な情報発信・学校と家庭の連携


教職員



5. 情報発信・学校と家庭の連携についての考察

・全体的に肯定的な回答が多く、学校と家庭で連携を取りながら教育活動を展開できていることが伺える。特に「学校は個人面談・懇談会・教育相談などで保護者の相談に乗る機会を設け丁寧に対応している」の項目では、「とてもそう思う」と回答した保護者の割合が4つの質問の中で最も高い結果となった。一方「ぜんぜん思わない」と感じている保護者も一部いた。個人面談や懇談会の在り方や相談を受けたときの対応に差がでないように、職員間でさらに共通理解を図っていくことが求められる。

・「PTA活動や様々なボランティア活動など、学校と家庭が連携をとり効果的な教育活動を行うことができている」の部分について、PTAの見直していることもあり、効果を感じられていない職員や保護者も一部いる。今後も保護者・職員で協力して、よりよいPTAやボランティアの在り方を模索していきたい。



ご覧いただき
ありがとうございました